

# 令和5年度 第53回九州中学校バスケットボール競技大会

## 個人データ表

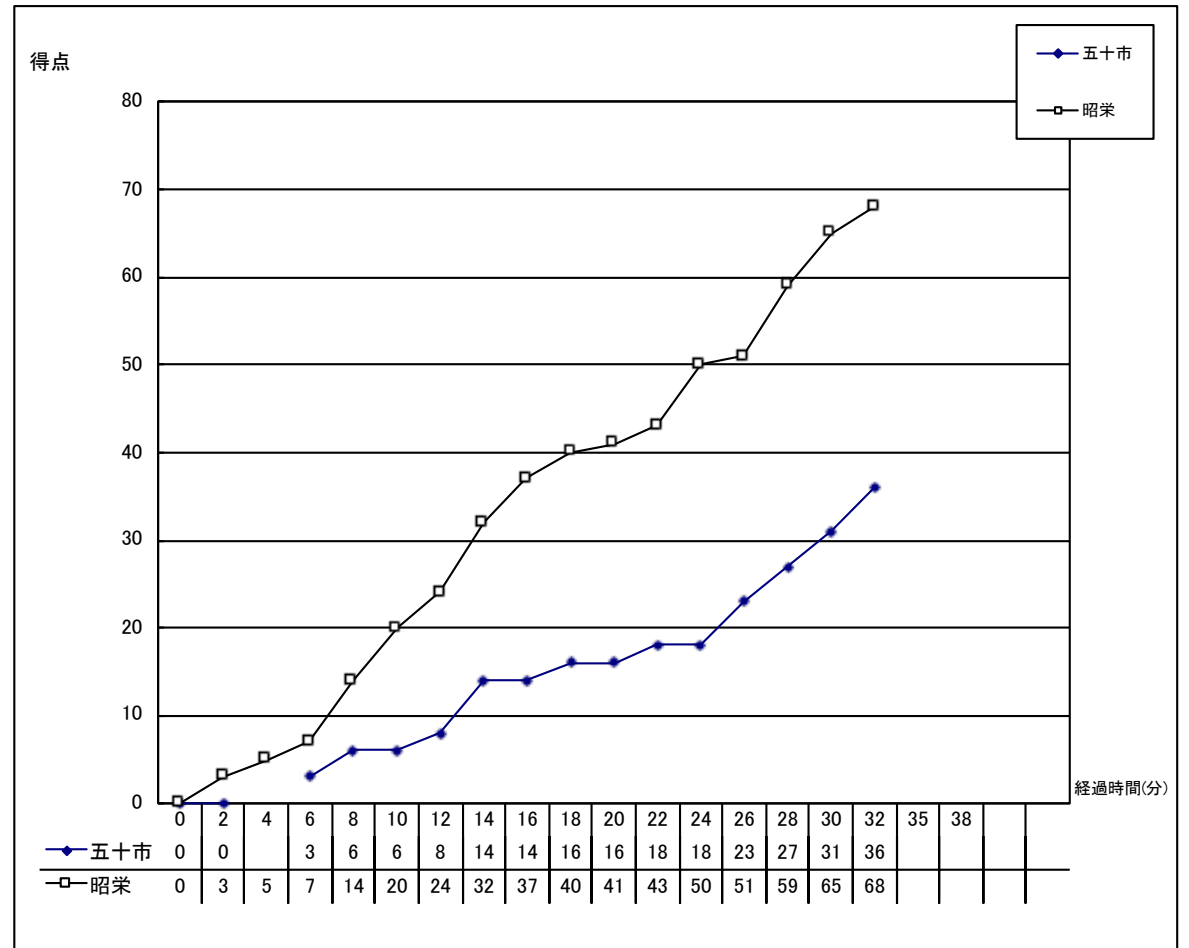
男子 1回戦	令和5年8月8日	16:40 開始
会場：益城町総合体育館	Dコート	第3試合
主審：松田 茂治	副審：奥村健吾 坂之上 哲也	

五十市	36	6	1 Q	14	68	☆ 昭栄 佐賀
宮崎		8	2 Q	23		
		4	3 Q	13		
		18	4 Q	18		

五十市												
番号	氏名	得点	3P	3P試投	2P	2P試投	FT	FT試投	反則	DF.RE	OF.RE	RE計
○ 4	塚田 佳稀琉	8			4	13			3	5	2	7
○ 5	黒葛原 隆太	12	4	11		3				3		3
6	塩見 悠人	3	1	1								
7	徳重 大和					1						
8	福留 健生									1		1
9	今村 航大	2			1	1						
○ 10	黒葛 瑛太	3	1	4		2		2	2	2		2
11	和田 琉希					1						
12	鎌田 遥翔	2			1	1				1		1
13	有馬 銀士郎											
14	岩元 優和								1			
15	塚田 大琥											
16	永井 敦貴											
17	黒木 大空											
18	野村 葵			1								
コーチ	木村 光伸											
合計		30	6	17	6	22		2	6	12	2	14
成功率			35.3%		27.3%		0.0%					

昭栄												
番号	氏名	得点	3P	3P試投	2P	2P試投	FT	FT試投	反則	DF.RE	OF.RE	RE計
○ 4	北島 彩都	10	2	4	2	2			1	1	1	2
○ 5	南里 明玲	12		1	5	14	2	4		2	1	3
6	生林 伶音											
○ 7	石井 宏汰	21			10	14	1	2	1	3	1	4
8	小玉 翔弥				1							
9	中島 青龍									2		2
10	碓 尚斗									1		1
11	浅尾 優心	3	1	1								
12	大隈 優斗											
○ 13	石井 秀汰	20	2	7	7	11		1	2	3	5	8
○ 14	田中 伶明	2		1	1	1			1	2	1	3
15	田川 道新											
16	池田 悠真											
17	古賀 琥太郎											
18	松崎 陽太											
コーチ	篠崎 文昭											
合計		68	5	15	25	42	3	7	5	14	9	23
成功率			33.3%		59.5%		42.9%					



### ＜戦評＞

1Q:両チームともにハーフマンツースタート。昭栄が#4の3Pで先制する。序盤はお互い固いディフェンスで得点を許さない。昭栄#13のリバウンドシュートなどで7-0とするも五十市も#5の3Pで応戦する。しかし、昭栄の固いディフェンスからの速攻、#7のミドル、#4の3Pが決まり、点差は二桁に。1Q終了間際に五十市#5の2本目の3Pが決まり、14-6昭栄8点リードで1Q終了。

2Q:開始1分、昭栄は#13、#7がポストプレイから得点し、18-6となったところで五十市が1回目のタイムアウト。その後も昭栄がプレッシャーの強いディフェンスから#13#4が速攻で点数を重ね、22-6となったところで五十市が前半2回目のタイムアウト。五十市もオールコートからディフェンスを強め、#4のミドル、#10の3Pで点差を縮めると昭栄がタイムアウトをとり、流れを断ちに行く。その後昭栄は五十市の厳しいディフェンスをかわり#7の3連続得点などで着実に点数を重ね、37-14昭栄リードで前半が終了。

3Q:開始早々五十市#4のミドルシュートが決まるが、昭栄が#13の3Pや#5の速攻からのドライブでさらに点差を広げる。その後お互いに固いディフェンスで得点を許さず、残り3分まで得点が動かない状況の中、五十市がタイムアウトを取り、流れを変えに行く。五十市は速いボールムーブからドライブを仕掛け、崩しにかかるが昭栄の固いディフェンスを崩せず、速攻からの得点を許してしまい、さらに得点差が広がる。50-18昭栄リードで3Qが終了。

4Q:五十市は一線目のプレッシャーと速いヘルプでディフェンスを固め、#4のミドルや#5の3P、#18のリバウンドシュートで反撃する。しかし、昭栄も隙を見てダブルチームからインターセプトを狙い速攻に繋げるなど、さらにディフェンスのプレッシャーを強め、点差を縮めさせない。五十市は途中交代の#6の3Pや#9のミドルがチームに勢いを与えるが、昭栄も最後まで粘りのディフェンスから着実に点数を加え68-36でタイムアップ。両チームともボールマンへのプレッシャーからリバウンドまで集中したディフェンスで見応えのある試合であった。自分たちのバスケットスタイルを貫き戦い抜いた両チームに拍手を送りたい。

戦評記者 荒川 龍治 (熊本市立日吉中学校)